



① 鳴谷滝

なるたにだき

藤原岳から湧き出る水（伏流水）は、ほとんどが鳴谷渓谷に合流します。直下数メートルの名勝鳴谷の滝で、ドウドウという響きとともに流れ落ちる姿は壮観です。最近になって滝行の場であったと思われる石段が現れました。

② 長寿の水

ちょうじゅ

伝教大師呼び出しの霊水といわれる、氷水を思わせるほど冷たい清水です。付近住民は神仏恵みの水として大切に守り続けてきました。この水を沸かして飲むお茶の味は格別で、この水を使って仕入れると湯さびがついて良い鉄瓶ができるという逸話もあります。

③ 回遊式庭園・鏡池

かいうしきていえん かがみいけ

平安時代に仏教が普及するにつれ、仏堂の前に極楽浄土をかたちどった浄土庭園が造られました。池の中に帝釈天が住むという須弥山（しゅみせん）を置き、そこへ呉橋（くれはし）をかけるのが定番でした。その中心である池は浄土池と呼ばれます。聖宝寺の泉水池はこの特徴を持っており、平安時代の造池といわれる名庭です。

庭園にはさらに浄土池とつながる形で鏡池があります。紅葉シーズンには真っ赤なもみじが池に写り込み『さかさもみじ』を楽しむことができます。

④ 頭なし地蔵・池守地蔵

いけもりじぞう

池の周りには2体のお地蔵さまがおられます。

頭なし地蔵さまは、頭の部分を撫でることで、頭部関連のお願い事を叶えてくれるとの逸話があります。

池の通路に佇む池守地蔵さまは、苔生したお姿が長くそこでお守りされていたことを表しています。ほっとするような微笑みのお顔です。

⑤ 紅葉・四季の樹木

聖宝寺境内の風景は昔から絶景地として名高く、春は桜、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪見と、四季とりどり遊客を楽しませてくれます。

血のもみじは、「戦国時代にこの地で亡くなった僧侶たちの思いがこの木に宿り、燃えさかるような真っ赤な色に紅葉するのだ」と仰ったことが元になり、いつしか「血のもみじ」と呼ばれるようになりました。

⑥ 本堂

鳴谷山聖宝寺は本尊に千手観音を安置する、臨済宗妙心寺派の禅寺です。平安朝初期の大同二年に天台宗の開祖、伝教大師大和上によって開創されました。一度は戦国時代の戦火に焼失しましたが、徳川中期萬治二年に、禅の巨宗大円宝鑑師愚堂大和尚によって再興されました。

御本尊の「十一面千手観音菩薩」はもみじ祭りの開催中に御開帳されます。

⑦ 玉広稲荷

たまひろいなり

伏見の稲荷総本宮から分霊を奉戴し、聖宝寺境内にささやかな祠を建立安置したのが玉広稲荷です。霊験あらたかな稲荷として里人の崇敬を集めています。

⑧ 縁結び地蔵

二体のお地蔵さんが仲良く並んでいるところから、いつしか縁結び地蔵と呼ばれるようになりました。娘さんの結婚祈願のお参りをされていた方から、ご縁が出来たとの嬉しいお便りも頂戴しております。

